

平成 21 年度第 1 回 建築学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成 21 年 6 月 15 日(土) 午後 4 時 30 分から午後 6 時 30 分まで

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：若井委員長、衣袋副委員長、真下委員、寺尾委員
井端事務局長、森下、恩田

IV. 検討事項

IV. 資料：

- ①平成 21 年度第 1 回建築学教育 FD / I T 活用研究委員会次第
- ②平成 21 年度建築学教育 FD / I T 活用研究委員会名簿
- ③前回議事録（開催日：平成 21 年 3 月 2 日）
- ④「建築構造の分野」について
- ⑤建築学の学士力について：建築計画・設計教育に関して
- ⑥日本建築学会・大会研究懇談会、実践力強化を目指す建築教育とは
- ⑦建築学および建築学関連分野要件の知識・能力等の内容
- ⑧同上、2009 年度 JABEE 認定審査実施要領
- ⑨2009 年度 N 大学建築学科コース別カリキュラム
- ⑩社団法人 私立大学情報教育協会 平成 21 年度事業計画
- ⑪分野別委員会の活動について（参考資料）
- ⑫「学生の成績評価厳格に」日経新聞 2009 年 4 月 8 日切抜き（同上）

V. 議事概要

本年度第 1 回目の本委員会開催にあたり、資料⑩をもとにして事務局より本年度の事業計画などについて説明があった。

1. 本年度の活動方針について

1) 本委員会委員の増員と新委員の選考について

- ・現在、7 名で構成されている本委員会の数を、1～2 名増やして補強したい。
- ・新委員は、現委員所属の大学以外で、本協会の会員大学の教員から選考する。
- ・新委員の専門領域は、建築材料系または建築施工系の中から選考したい。

2) 議事録の公開とまとめ方について

- ・昨年度から学系別委員会の議事録は、本協会の HP 上で情報公開している。
- ・議事録の内容は、会議の流れが分かるようにまとめること、発言者の個人情報等に留意すること、単なる速記録にならないようにすることなどが確認された。

2. 学士力の詳細設計について（前回からの継続）

建築学教育分野における学士力について、提示された資料④～⑨をもとに到達目標

をイメージしたコア・カリキュラム、到達目標などについて意見交換を行った。

1) 「建築構造の分野」からの提言（資料④）

- ・建築構造の立場からみた学士力には、次の4つの基本となる指針が提言される。
①知識・理解、②汎用的技能、③態度・志向性、④統合的な学習経験と創造的思考力
- ・昨年度の改正建築士法の施行に伴って、本年度から建築系大学における教育内容は、従来の特色ある教育システムの構築から、建築士受験資格の科目認定制度に基づく指定されたカリキュラム体系の構築へと大きく転換したところである。
- ・今後、JABEE や UIA (世界建築家連合) などの建築教育との関わりに留意したい。
- ・本協会としても、学系別の各研究委員会と JABEE との関係は、重視したい。

2) 建築計画・設計教育に関して（資料⑤～⑥）

- ・教育的理念として提唱している 5W2F1H (Who, Where, When, What, Why, For anyone, For anything, How) の考え方で、建築設計計画と実務教育の関係をダイアグラムにして説明することができる。(資料⑤の実務教育の位置づけ)
- ・上記に関連して本年度の日本建築学会大会において研究懇談会が開催される予定である。(資料⑤の内容は、一部改訂して近日中に公表予定)
- ・設計教育は、できるだけ少人数教育で、職業意識を持たせるように指導している。
- ・設計教育の現場では、指導教員とともに大学院の TA の役割も重要である。

3) 建築学および建築学関連分野要件の知識・能力等の内容（資料⑦）

- ・提示した資料は、6つの領域を包括基礎と位置づけた JABEE 関連の資料である。
- ・6つの領域は、建築設計演習、建築計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産、分野横断領域で、JABEE では、各々の学習保障時間の最低要件が決められている。

4) 2009年度 JABEE 認定審査実施要領および N 大学建築学科コース別カリキュラム（資料⑧～⑨）

- ・本資料は、前項と一部重複するが、本年度建築学分野 JABEE の最新資料である。
- ・現行の建築系学科の事例として、N 大学建築学科の履修コース別カリキュラムを提示した。当該コースは、建築エンジニアリングコース、建築デザインコース、アーキテクトコースの3つである。なお、各コースの選択は、2年次からである。
- ・一級建築士の合格率の低下が懸念されるが、今後とも、建築系学科の卒業生は、建築士の資格取得を目指すことであろう。なお、最近の就職先は、多様である。

3. 今後の活動スケジュールについて 資料⑩

- ・本協会が平成 24 年度の「大学教育への提言」の策定に向けた活動として、本委員会では、建築学分野における「学士力」の詳細設計についての検討を継続する。
- ・次回の委員会までに、建築学分野の学士力として提示した4つの能力（後述）について、具体的な用語による解説を宿題として、次回も継続して検討を進める。
- ・新委員が推薦されて理事会の承認が間に合えば、次回委員会から出席を要請する。

4. その他

- ・学士力の詳細設計は、本委員会として最終的にどのような体裁にまとめるべきか。
- ・昨年度、建築学分野の学士力として提言した4つの能力（下記）について、当該項目の具体的な内容が分かるように用語による解説を付け加えることとする。

◇建築学分野の「学士力」として提言した4つの能力

1. 建築に関する学術、技術および芸術の包括的な専門知識を修得できる。
2. 生活環境の継承および構築に必要な建築の技法を身に付けることができる。
3. 生命の安全、財産の保護、公共の福祉の観点から建築を考えることができる。
4. 建築に関する問題解決力や創造的思考力の基礎を身に付けることができる。

- ・建築学分野の「学士力」として提言した4つの能力について、1と2の能力は、理解できるが、3と4の能力は、その趣旨がやや分かりにくいのではないかと。
- ・今後、「学士力」の詳細設計の過程で、必要があれば、提言した上記の文言の修正を含めて検討する。

5. 次回の委員会開催日

平成21年8月3日（月）11：00～13：00

6. 次回までの宿題

『建築学分野の学士力の詳細設計について（継続）』

- * 建築学分野の「学士力」として提言された4つの能力について、各委員から用語による解説をお願いしたい。7月末までに、事務局宛にご回答いただきたい。当該データは、後日、各委員宛にメールで配信する。

以上